

Key Person



(株)田和コーポレーション 代表取締役社長

田和 草太郎

職人として社会に踏み出し、幅広い経験を積むと共に活躍していた田和社長だが、ワークライフバランスなどに鑑みて家族のことを思い、異業種の営業マンに転身した。全くの素人だったが家族を守るために努力を重ね、優秀な成績を収めるほどになった社長。当時を振り返り、「人間その気になって努力を惜しまなければ何でもできる」と語っていた。その後、再び職人として歩み出してから堅調に事業を進めているのは、培った知見に加え、大切な人を守るためなら身を粉にして精励する、誠実な人柄に関わる人が惹かれるため。家族や仲間など周りにはいる大切な人たちの存在を励みに社長は今後も研鑽を重ね、さらなる力と人の輪を得ながら訪れるどんな困難でも打破し、邁進していく構えだ。

「大切な人たちのために——という想いを力に
努力を重ねれば、人はどんな壁でも打破できる」

印刷事業と建設事業の両輪で邁進 社の明るい未来を切り拓く――

企画やデザインから印刷までを行う印刷事業と、建築・設備・土木・解体を手掛ける建設事業という二本柱で、地域に根差して堅調に歩んでいる『田和コーポレーション』。本日は、同社をタレントのダンカン氏が訪問し、田和社長が印刷事業と建設事業を手掛けることになった経緯や、その仕事観、今後の目標などを伺った。

家族のことを思って歩み続け、 周囲の人に支えられて社の基盤を整える

――はじめに、『田和コーポレーション』さんの沿革と業容から伺います。

当社の起こりは会長である母方の祖父が印刷会社を興したことです。その後、祖父の印刷会社が地域に根差して業歴を重ねる中、私が建設業で独立しまして、事業を共にして歩むことになり、今の印刷事業と建設事業の二本柱になりました。印刷事業では企画やデザインから印刷までを行っており、建設事業では建築・設備・土木・解体を手掛けています。

――建設業で独立とおっしゃっていましたが、田和社長は社会の第一歩としてお祖父様の印刷会社ではなく、職人の道を選ばれたのでしょうか。

ええ。身体を動かすのが好きだったので、高校卒業後に大工を目指して職業訓練所に入りました。それから人とのつながりで建設工事業を手掛ける会社に就職。そうして職人として生計を立てる中で結婚を経て子どもにも恵まれました。その後、2人目の子どもが産まれた折に、家族のことを第一に将来について改めて

考えまして、一念発起し転職を決意。機械の製造会社で働き始め、そちらで3年ほど勤めた後、再び職人仕事に就いた次第です。

――異業種へと転身し、その後また職人として生きていくことについて、どういったきっかけがあったのでしょうか。

家族の存在です。私が職人に戻るまでの経緯をお話しますと、当時営業マンとして働くようになったのですが、全くの素人でした。営業マンとして、お客様の前でプレゼンなどをする際は当然ですがお客様以上の知識が求められますから、少しでも早く活躍するため知識と経験の集積に日々励んでいました。また、家族を守る責任感を胸に努力を重ねながら仕事に勤しむ中、朝早くに出勤して夜中に帰宅するという生活サイクルになっていったのです。お陰様で、努力が実を結んでか成果も徐々に現れていきまして、張りのある充実した毎日を過ごしておりました。当時「人間その気になって努力を惜しまなければ何でもできる」と感じたものです。

けれど、そのような働き方について、妻から「収入が下がってもいいから現場

の仕事に戻って家族との時間を取れるようにしてほしい」と言われまして、そこで気持ちを改めて職人仕事に戻ることになりました。

――ご家族のことを第一に考えて社長が歩まれてきたことが分かりましたし、情に厚いお人柄も感じられました。

ありがとうございます。そうして一人親方として歩み出してからは、3年間培った営業スキルも活かし、徐々に仕事を増やしていきました。ただ、出張などで遠方の仕事に出ていると、地元で請け負った仕事に十全に対応しづらくなっていきまして、家族との時間も大切でしたし、地域密着の姿勢で事業を進めるようになったのです。以来、地道に実績を積み重ねる中で芽が出てきて売上が伸びていき、先ほど話したように祖父の印刷会社と事業を共にするようになりました。それが2016年のことです。それから徐々に周囲の方々に相談してアドバイスしてもらい、取引先や協力会社などを紹介していただいでお客様の要望に柔軟に対応できる体制を整え、人の輪も広げられました。周りの皆様には非常に助けられましたので感謝しかありません。

理知的な経営観で進むべき道を見出し、顧客への誠意を念頭に前進

年商数十億円を目指す田和社長は、その目標達成における重要な一因として建設・印刷の両事業の発展を考えており、そのために日夜努力を重ねている。他には、社の基盤づくりや人材の確保・育成及び、スタッフが働きやすい環境の創出などを必要な要素としている。「目標とする年商を実現するためには何をどうすればいいか」との考えを念頭に、ゴールから逆算して必要なことを見つけ出し、プロセスを組み立てている社長。向こう見ずでがむしゃらに邁進することなく、段取りを組んで計画的に歩みを進めるクレバーな経営者だ。

そんな社長は人とのつながりに助けられ、取引先や協力会社などの縁を得て社の基盤を築いていった。そのことについて周囲への感謝を述べる他、「仕事があっても建材や建機、人員が足りずに対応できなければ、お客様に迷惑が掛かってしまう。そこでまずは、ご要望にしっかりと対応できる基盤づくりを意識しました」とも話していた社長。その言葉から、理知的な経営観の根底に「顧客本位」という意識があることが窺えた。進むべき道をしっかり見出し、顧客への誠意を念頭に歩む社長ならば、遠くまで掲げた目標を達成することだろう。

掲げた目標の達成に向け、 一步一步着実に歩みを進めていく

――社長の仕事振りや真摯な姿勢が、人の輪を広げる一因になったのでしょうか。

ありがたいことに、人とのつながりに支えられて今でも事業を堅調に進めることができている。ただ、私には印刷業に関するノウハウが豊富ではなく、そちらの発展にあまり注力できていないのが現状。ですから現在、印刷業の知見も深

めるべく励んでいるところです。学生時代は勉強が嫌いだったのですが、今は仕事を終えてから夜遅くまで知識の集積に勤しむ日々ですね(笑)。と言うのも、印刷関連の仕事を受けた時、建設のほうでも何かお客様のお役に立てることがあるかもしれませんし、その逆のパターンも然りです。そうして印刷と建設の両輪で見据える目標に向けて邁進していきたいと考えています。

――努力家な社長が見据える、その目標

を最後にお聞かせ願えますか。

年商数十億円を目指しています。そのためには、社の確たる基盤を整え、快適に働ける環境づくりに努めると共に人材の確保・育成にも力を入れていかねばなりません。目標達成への道のりは遠く、必要となることも一度には成せませんし、長期的な取り組みとなりますが、一步一步着実に前進して社の未来を切り拓いていきたいと思っています。

(取材／2017年12月)

代表取締役社長

田和 草太郎

広島県出身。人とのつながりから建設工事業に就いて社会の第一歩を踏み出す。その後、異業種である機械の製造会社の営業マンに転身。幅広い経験と知識を蓄積した後、再び職人として歩み出し、地道に実績を重ねる中で人の輪を広げていった。さらに2016年から、祖父が興した印刷会社と事業を共にして、印刷業と建設業を行うように。現在、年商数十億円という目標に向け、二本柱で邁進している。



After the Interview

ダンカン

「田和社長は印刷業について、『会長が従事していたころと今の時代では違うところもあります。時代に対応すると共に、デザインを重視して付加価値のある仕事を納めていくつもりです』と話しておられました。明確な方向性を見出しておられますし、社長が今後どんな活躍を見せてくれるのか楽しみでなりません」

株式会社 田和コーポレーション

広島県福山市駅家町法成寺 426 番地

